様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　２ 年　７ 月　３ 日現在

機関番号：３２６７２
研究種目：挑戦的研究（萌芽）
研究期間：2017～2019
課題番号：１７Ｋ１８４９１

研究課題名（和文）災害場面別英語対応視聴覚教材の開発

研究課題名（英文）Development of Audiovisual Teaching Marerials for Disaster Medicine

研究代表者
秋山　庵然（AKIYAMA, Anzen）

日本体育大学・保健医療学部・研究員

研究者番号：００１２３１１７

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　4,900,000円

研究成果の概要（和文）：　日本は災害多発国である。このため、近年急増している訪日外国人が日本で被災者になることも多い。外国人が被災者になると、日本語が話せないために「災害弱者」になる可能性が高い。しかし、日本を訪れている外国人の中には（日本語が話せなくても）英語なら通じる人が多い。したがって、日本人の救急隊員・医療関係者・行政職員等が英語で対応できれば、言葉の壁を低くすることができる。
　本研究では、救急・医療・行政等の関係者が、外国人被災者と直接英語で対応することを目的として災害現場対応に特化した視聴覚教材を作成した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
　日本で外国人が災害に遭ってしまった場合、日本語が話せないために「災害弱者」になることが多い。その時、例えば避難所等において、救護・医療・行政等の日本人関係者が被災外国人と直接英語で話すことができれば（日本語は話せなくても英語なら話せる外国人は多い）、被災外国人は安心でき、災害弱者にならずにすむ。本教材を使用することにより英語対応の準備が可能となる。また、日本人関係者が災害・救急医療現場で英語対応ができるようにしておけば、外国での災害医療活動等に参加するさいにもおおいに役立つ。

研究成果の概要（英文）：　Natural disasters such as earthquakes and typhoons occur frequently in Japan. Consequently, foreign visitors, whose numbers have been rapidly increasing recently, can often become disaster victims in Japan. These foreign disaster victims have a high probability of becoming “disaster disadvantaged”due to a lack of ability to communicate in Japanese. However, many foreigners can speak English (even if they do not know Japanese). Thus, if Japanese workers such as paramedics, healthcare workers, and administrative staff can provide support in English, this language barrier can be reduced.
　In this study, to resolve such issues, we developed audiovisual materials specifically for supporting foreign disaster victims. The purpose is to help Japanese workers, such as paramedics, healthcare workers, and administrative staff, directly provide support in English to foreigners to achieve smooth communication.

研究分野：医療英語教育

キーワード：災害医療英語　災害トリアージ　災害弱者

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

１．研究開始当初の背景

グローバル化にともない、日本を訪れる外国人の数は急増し、2016 年には 2000 万人を超え、2018 年には 3000 万人を超えた。観光客以外にも数百万人の外国人が日本で暮らしている。さらに 2020 年に開催予定であった東京五輪･パラリンピックを控えてますます多くの外国人が日本を訪れることが見込まれていた。ところが残念ながら、日本は地震をはじめ台風や火山噴火等多くの自然災害の多発国である。このため、増加する外国人が日本で災害に遭うことも多くなってきている。そして外国人がいったん災害被害者になると、災害救護活動が始まっても日本語が話せないためにいわゆる「災害弱者」になる可能性が高い。災害現場・医療機関・避難所等で被災した外国人が日本人の救急・救護・医療・行政等の関係者と会えても、その外国人が日本語を話せないとコミュニケーションをとることが困難である。しかし日本語が話せなくても英語なら話せるという外国人が多い。それなら被災外国人に対応する日本人関係者が英語を話せばいいわけだが、残念ながらなかなかむつかしい現況にある。ここに言葉の壁がたちはだかることになる。両者をつなぐ通訳者がいてくれれば問題はないが、災害という特殊な、そして一刻をあらそう状況下においてこの環境を整えることは不可能といってよい。しかるに、日本人の救護・医療・行政関係者が直接英語で外国人被災者と話すことができるように、コミュニケーションがとれるように､災害場面に特化した英語の視聴覚教材を開発することにした。現在市販されている医療従事者向け英会話教材はその大部分が医師や医学研究者のための英会話集であり、外来診療や病棟における患者と医師との会話を日常的な状況で設定し、対話形式でまとめられているものが多い。災害医療・救急医療・病院前救護などに特化した英語対応視聴覚教材は見当たらなかった。

２．研究の目的

日本を訪れる外国人の多くは（日本語が話せなくても、そして程度の差はあっても）英語を理解し、話すことができる。したがって災害時に救護活動等に携わる日本人が直接英語で迅速に対応できれば、外国人被災者は安心でき、大いに助かる。一刻をあらそう傷病場面においては即生死にも直結する重要なことである。災害混乱時において、救急医療処置が求められる状況において、通訳者を介さず日本人関係者が直接英語で被災外国人に対応できるメリットはきわめて大きい。そのためとりわけ DMAT（災害派遣医療チーム）や DPAT（災害派遣精神医療チーム）のような医療関係者・救急救護救助隊員・関係行政職員等には直接英語で被災外国人に対応することが求められるであろう。この観点から、本研究ではこのような関係者向けに、また将来災害現場で救護活動隊員として活躍する可能性の高い保健医療関係の教育機関で現在学修している学生向けに、「災害場面別英語対応視聴覚教材」を開発した。またこの教材は外国での災害救助救援活動に参加しようとする日本人にとっても有益な教材となる。英語で対応しようとするこの姿勢はまた、災害時の人道支援の原則として国際機関も挙げている「言語集団や民族、コミュニティーに分け隔てなく被災者の公平性を高めることを目指さねばならない」という指針にも合致するものである。旅行中に日本という知らない土地で、地震を生まれて初めて経験してショックを受けているかもしれない、あるいは負傷して避難所にやっとたどり着いたかもしれない外国人の被災者に対して、言語による壁を低くすることを期待して災害場面別英語対応視聴覚教材を開発した。日本語がわからない外国人の被災者は、医療関係者からは医療ケアに関して、そして行政職員等関係者からは災害に関する正確な情報などを、直接英語で提供してもらえることを強く望んでいるはずである。それに応えようとするのが本研究の目的である。英語による実践的な災害医療初期診療、避難所における英語対応についての英語視聴覚教材は必要不可欠といえる。

３．研究の方法

目的に沿って教材作成のため、以下の６場面を想定した：

（1）START Triage（START 法トリアージ）
（2）PAT Triage（PAT 法トリアージ）
（3）Handling complaints from the injured（傷病者からのクレーム対応）
（4）Crush Syndrome（クラッシュ症候群）
（5）A large earthquake has occurred（大地震が発生）
　　（避難所にて外国人避難者と日本人対応者との会話）
（6）A large earthquake has occurred（大地震が発生）
　　（避難所にて外国人妊婦と日本人対応者との会話）

この６場面についてそれぞれ救急医療・病院前医療などの医学的知識と手技も学修可能になるように台本を用意した。収録映像の編集にさいしても教材利用者の利便性を高めるように配慮した。収録に際しては教育ビデオのため、マスクとグローブ、ヘルメットは着用せずに収録した。また収録時の脱衣も同様の理由で省略した。収録後は医学的知識と手技の学修の観点から

慎重に編集した。また当然予想される現場における被災外国人傷病者からのクレーム対応の場面も採用した。映像編集作業のあとは再度そのビデオ映像に合わせて台本も調整し、それを英語に翻訳した。その英語台本をネイティブスピーカーに発音してもらい、それを収録ビデオに吹き替え編集して DVD を完成させた。そのあと、この DVD に対応する紙媒体テキストを編集・作成した。DVD の英語が視覚でも確認できて、利用者の利便性が高まる。また、比較的大きめのフォントを使用しているので、外国人との会話中に音声的にコミュニケーションがとれない場合でもこのテキストの該当部分を指さしするなどすれば役立つと思われる。なお、DVD にも紙媒体テキストにも「科研費により研究結果を発表する場合は、科研費により助成を受けたことを必ず表示してください」の指示にしたがい、その旨表示済みである。

４．研究成果

近年急増している訪日外国人が災害多発国の日本で災害被災者になることが容易に想定される。被災者になってしまった外国人の多くは日本語が話せないために「災害弱者」となることも容易に想定される。この問題を解決するための手段の一つとして本視聴覚教材を開発した。教材完成後、本教材を保険医療学部救急医療学科の学生を対象に使用してみた。アンケート用紙による調査によると、おおむね良好な結果であった。また、大学英語教育学会においても「災害医療のための英語視聴覚教材の開発」として口頭発表（実践報告）したが、おおむね好評であった。

なお、本教材と『救急救命士に必要な場面別英語対応ガイド』（課題研究 15K12919「救急医療初期対応時に必要とされる英語の視聴覚教材の開発」に基づく DVD とその参考・学習テキスト「場面別英語対応ガイド」）とを合わせて、『救急・災害　場面別英語対応ガイド』の用意ができた。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計0件

〔学会発表〕　計1件（うち招待講演　0件／うち国際学会　0件）

１．発表者名 秋山庵然
２．発表標題 災害医療のための英語視聴覚教材の開発
３．学会等名 大学英語教育学会
４．発表年 2018年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	山口　和之 (YAMAGUCHI Kazuyuki) (00339491)	日本体育大学・スポーツ文化学部・教授 (32672)	
研究分担者	金田　英子 (KAMEDA Eiko) (10253626)	日本体育大学・スポーツ文化学部・教授 (32672)	
研究分担者	鈴木　健介 (SUZUKI Kensuke) (20732506)	日本体育大学・保健医療学部・准教授 (32672)	
研究分担者	後藤　ちとせ（堀内ちとせ） (GOTO Chitose) (50257606)	藤田医科大学・医療科学部・准教授 (33916)	

６．研究組織（つづき）

	氏名 （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	小川　理郎 (OGAWA Satoo) (70318484)	日本体育大学・保健医療学部・教授 (32672)	
研究協力者	村山　康雄 (MURAYAMA Yasuo)		